コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方 ～共創的人文社会科学の基盤構築とモデル形成～

大阪大学

本プロジェクトでは、新型コロナウイルス感染症を素材として、社会的課題や緊急事態への対応能力や専門知識について、専門家の役割やコロナ危機によって浮き彫りになった社会的課題などを考察する。これにより、将来の人口動態を考慮した社会や人間の在り方について、人文学や社会科学の研究者を中心に共創的なアプローチで検討する。また、研究活動や社会・学術への発信を通じ、人文社会系研究者が異分野や社会と交流する機会を創出し、若手研究者のキャリアパス開拓を支援し、価値観の多様化や研究を支援するモデルの形成を目指する。これにより社会に応答可能な学問への貢献を促進し、従来の挑戦に対応しながら学問のレベルアップに貢献する。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

政策形成過程における専門家のあり方、将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方を、人文学・社会科学の研究者を中心に共創的アプローチで検討する・人文社会系研究者の価値観の多様化・多角化・多層化を促進しする。

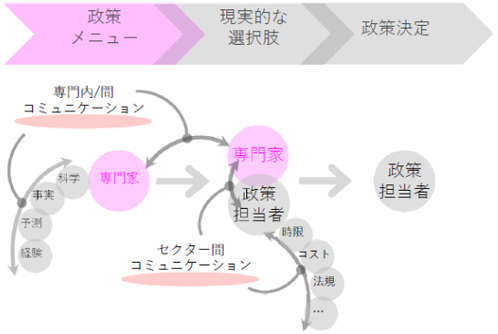
参画しているステークホルダー/「矩」を超えた場づくりの工夫

コロナ危機時の対応を例として政策形成過程を捉えるものであり、公共政策、政治学の研究者とともに、社会における影響を図るため、経済学、社会心理学、行政学などを専門とする人文・社会科学の幅広い研究者が参画している

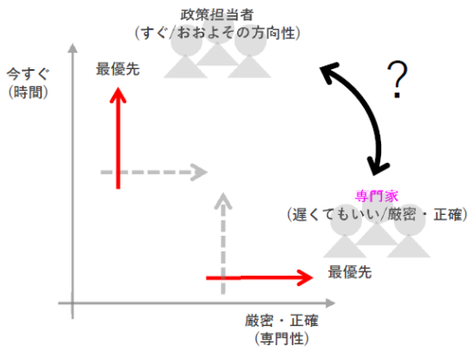
生み出された総合知 / 得られた新たな価値

多様な専門家・実践者・ステークホルダーを巻き込むネットワーク基盤の素地を形成し、長期的には、本プロジェクトで提示する共創的人文社会科学のモデルを活用して、異なる価値観を包摂する集団的意思決定の仕組みが機能する社会の実現をめざす。

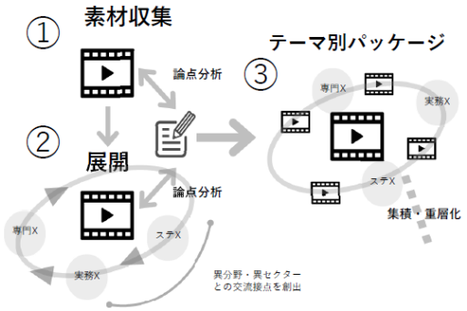
◆政策形成における専門家の関わり方



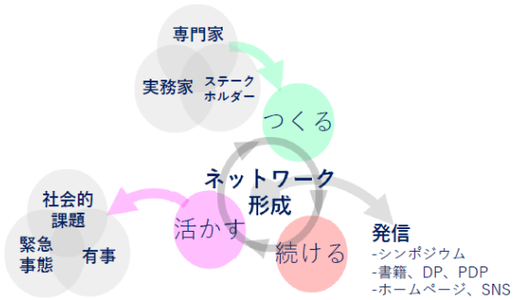
◆専門家と政策担当者間の意識のギャップ



◆共創的人文社会科学のモデル創出



◆ネットワーク形成と展開



総合知活用事例

コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方
～共創的人文社会科学の基盤構築とモデル形成～

JSPS令和5年度 学術知共創プログラム 採択研究テーマ

研究代表者: 大竹文雄
(大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授)

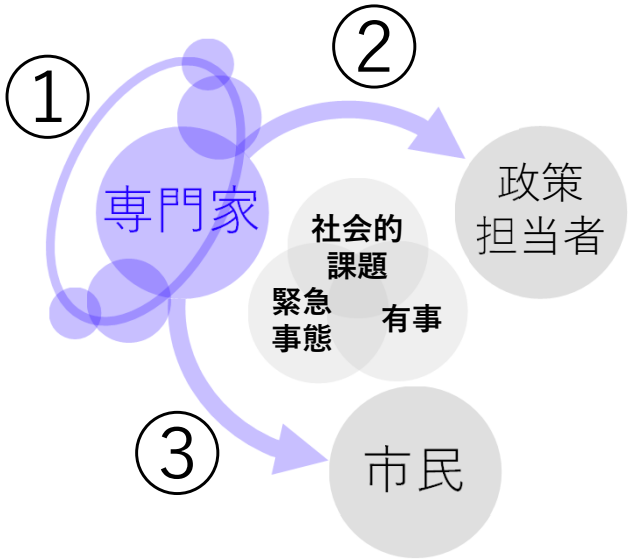
問題意識

コロナ危機で顕在化した課題
・有事における専門家のあり方

①専門家と専門家
- →専門家内/間コミュニケーション
- →有事対応のプレイヤー意識
- →平時から専門知が信頼・認知されるための学会や研究者個人の文化

②専門家と政策担当者
- →科学的知見と複数の政策目標
- →意識のギャップ
- →異セクターとの関わり方と役割分担

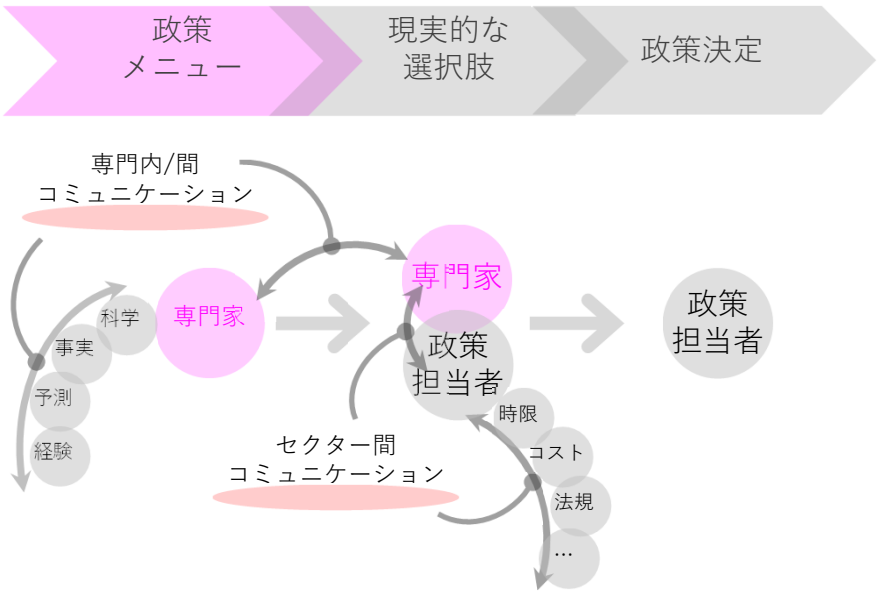
③専門家と市民
- →明確で早い情報と曖昧で遅い情報の格差
- →情報の届け方
- →加速した社会的課題への関わり方(出生率低下)



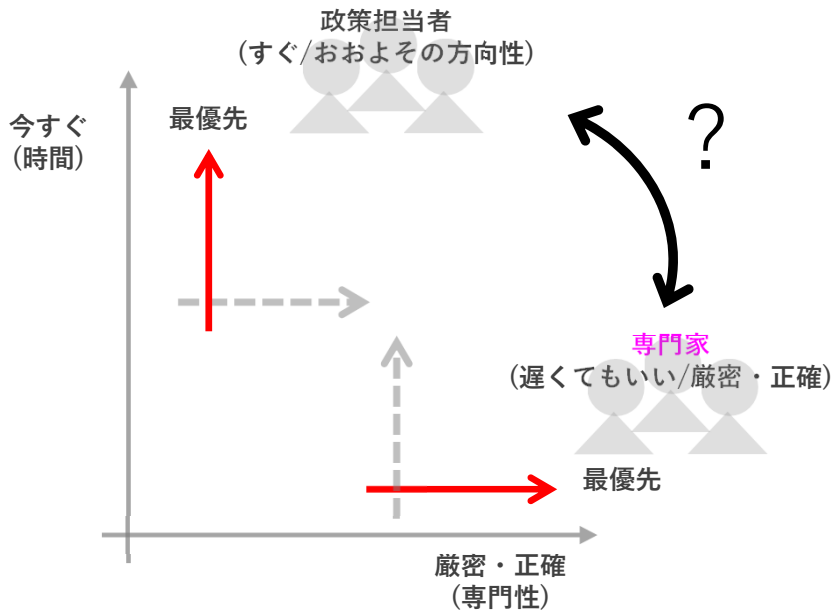
アプローチ

・社会的課題・緊急事態・有事に対応できる平時におけるネットワーク形成
→共創的人文社会科学の基盤構築とモデル形成
→学会や研究者個人の意識改革

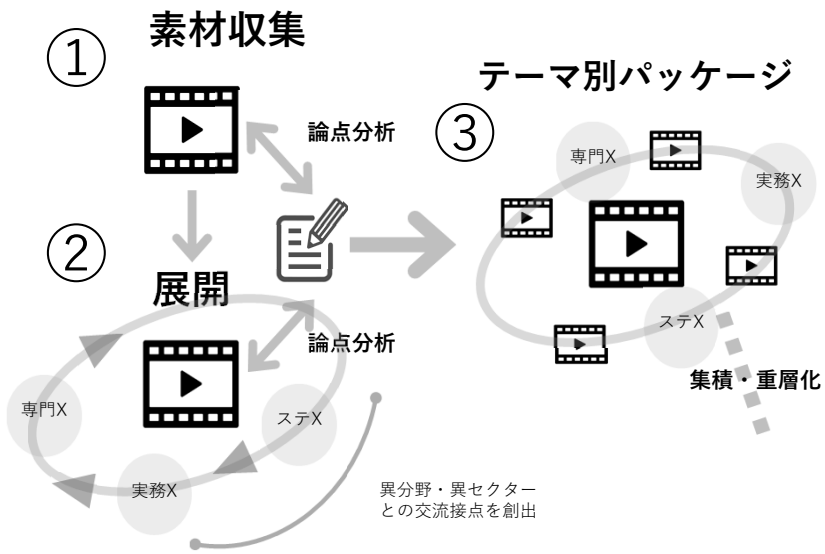
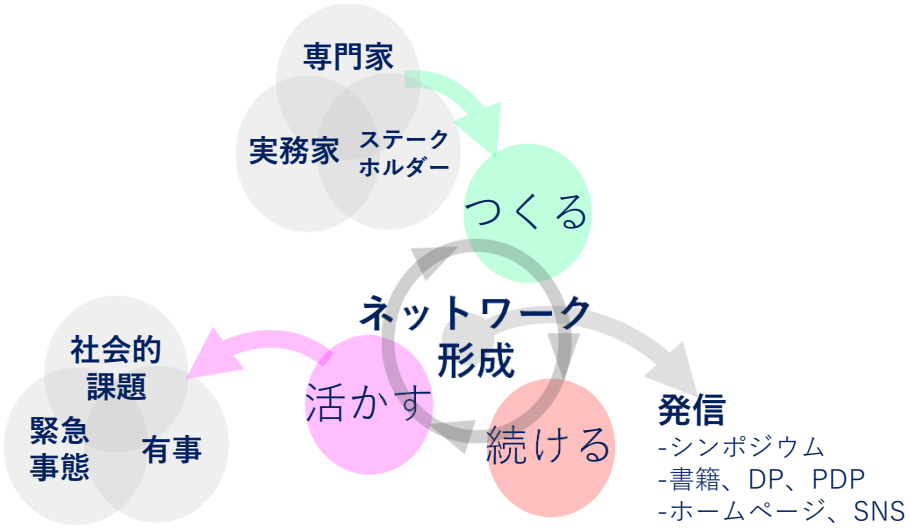
◆政策形成における専門家の関わり方



◆専門家と政策担当者間の意識のギャップ



◆共創的人文社会科学のモデル創出



◆ネットワーク形成と展開